

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里第一小学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

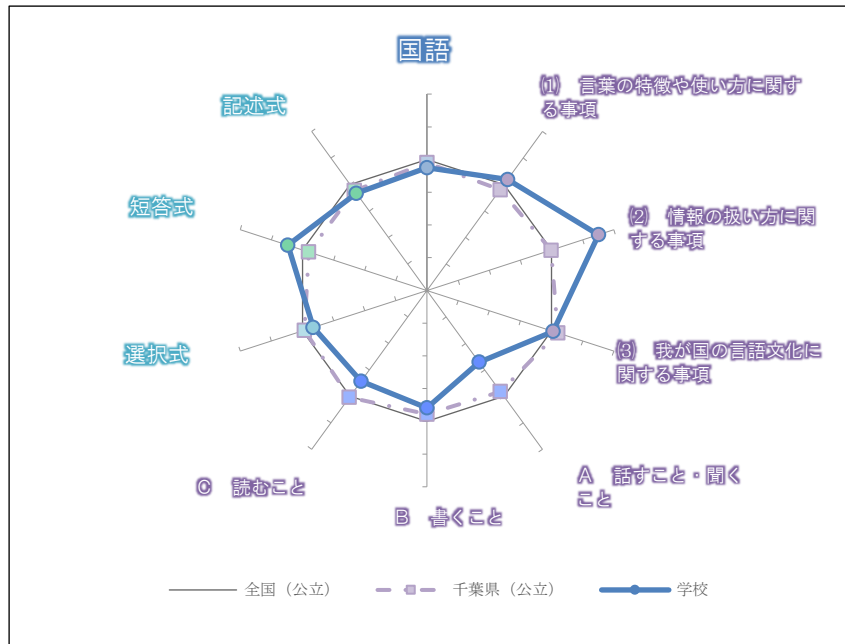
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



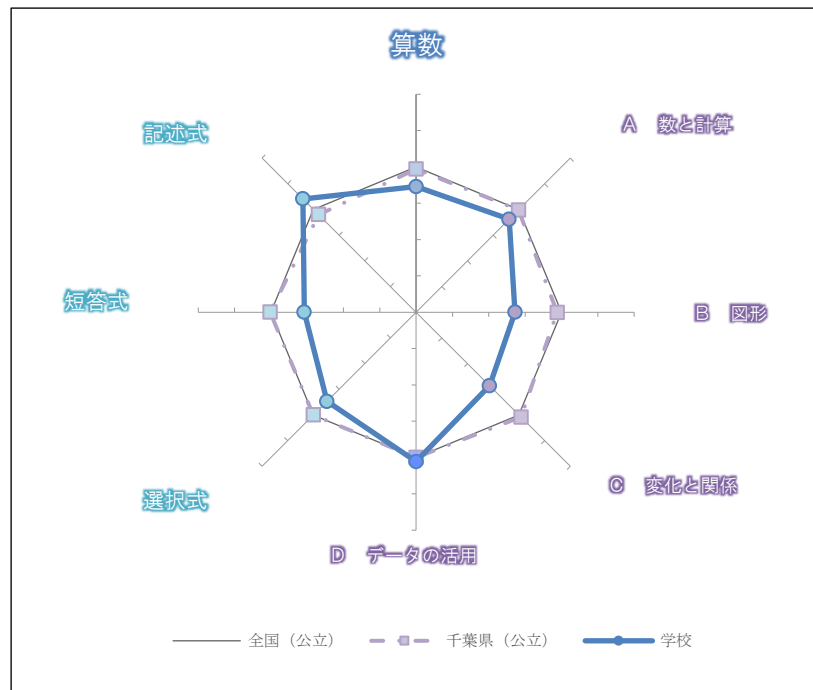
【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、ほぼ同じです。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の領域すべてが、全国平均を上回っています。特に、「情報の取り扱いに関する事項」の領域は、全国平均を大幅に上回っています。情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係性の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題は全員が正答することができました。
- 「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均を大幅に下回っています。オンラインで交流する場面において、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合うことに課題がありました。
- 短答式の問題全体の正当率は、全国平均を上回っています。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていました。
- 選択式・記述式の問題全体の正答率は、全国平均をやや下回っていますが、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することは比較的よくできていました。

【改善方策等】

- ドリルタイムを実施し、基礎基本の確実な定着を図ります。
- 「書くこと」については、課題に対して筋道を立て論理的に考える活動、自分の考えを順序立てて文章構成する活動、そして自分の考えを適切な言葉を使って表現する活動などを、様々な教科、場面において積極的に取り入れることで、文章表現力の向上を図っていきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、目的に応じて話し合ったり、話し手の意図を理解したりする指導を取り入れていきます。
- 「読むこと」については、図書、新聞をはじめとする様々な文章を読んだり、活用したりする機会を増やし、向上を図ります。

算 数



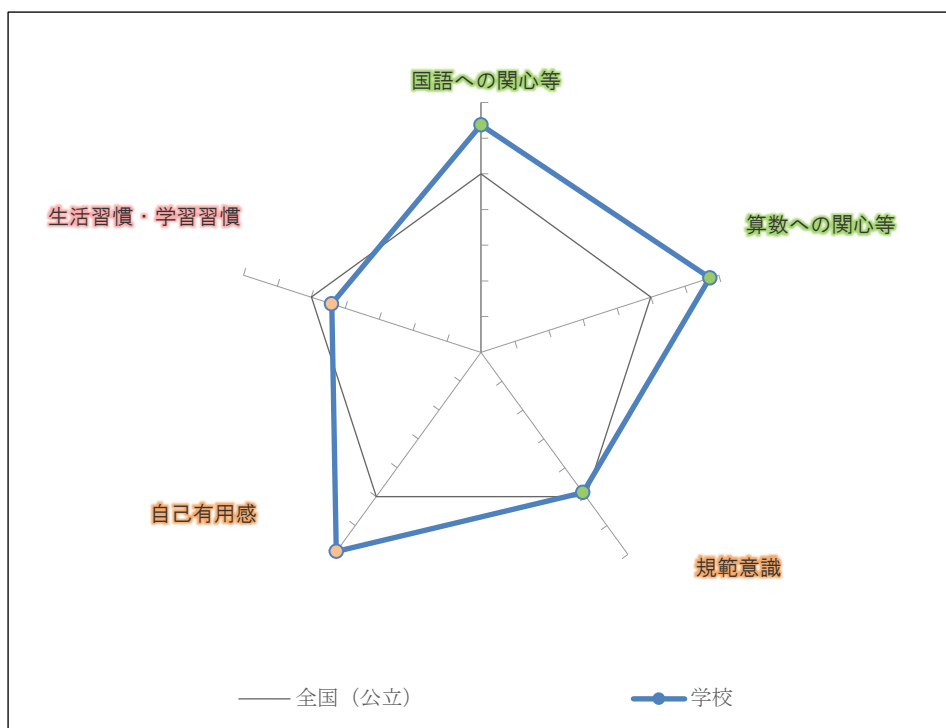
【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、下回っています。
- 「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域すべてが、全国平均を下回っている。特に、「図形」の領域は、全国平均を大幅に下回っています。球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積を求める問題に課題がありました。「変化と関係」の領域においては、速さの意味について理解しているかどうかをみる問題に課題がありました。
- 選択式、短答式の問題全体は、全国平均を下回っています。示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する短答式の問題に課題がありました。
- 記述式の問題全体の正答率は、全国平均を上回っています。特に、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、データの活用をしながら条件に当てはまることを言葉や数を用いて記述する問題は、比較的よくできていました。

【改善方策等】

- ドリルタイムを実施し、基礎基本の確実な定着を図ります。
- 問われていることが何かを適切に判断するために必要な読む力を向上させるため、国語科の学習とあわせて、文章を読んで要点を正しく読み取る活動を行います。
- 図形や数量を日常生活と関連づけて解釈するような活動を意図的に取り入れます。
- 記述問題の正答率をさらに向上させるために、日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させていきます。
- グラフや他の資料の読み取りについて、社会科の学習と併せて読み取る力、活用する力の指導の充実を図ります。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「国語への関心等」「算数への関心等」「自己有用感」の項目は、全国平均と比較して上回っています。
- 「規範意識」「生活習慣・学習習慣」の項目は、全国平均と比較して下回っています。
- 「新聞を読んでいますか」という設問に対して、否定的な回答をする児童の割合が、全国平均と比較して多かったです。
- 「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」という設問に対して、肯定的な回答をする児童が、全国平均と比較して多かったです。
- 「国語や算数の勉強は大切だと思いますか」という設問に対して、肯定的な回答をする児童が、全国平均と比較して多かったです。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められています。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「思考力・表現力」の向上に努めてまいります。さらに、目的に応じて話し合ったり、文章を書いたりする活動も充実するよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。そして、学習内容の定着を図るために、家庭学習の工夫・改善を図っていきます。本校では学力向上委員会を中心に、様々な取り組みを推進し、学力の向上を図っています。また、富一スタンダードを作成し、学習面、生活面ともに、学校全体で共通理解を図り、改善を重ねています。児童の成長は学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。